年間第６主日

第一朗読　エレミヤ 17・5-8
第二朗読　一コリント 15・12、16-20
福音朗読　ルカ 6・17、20-26

2010.2.14　9：30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　吉池好高神父

今日のルカ福音書が伝えるイエスのおことばは、マタイ福音書の、「心の貧しい人は幸いである」ということばで始まる、わたしたちになじみ深い、いわゆる山上の説教（マタイ 5・1-12）のおことばと内容としては重なり合っています。

マタイ福音書では、「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだと思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」（マタイ 5・17）というイエスのおことばの持つ権威を強調するために、シナイの山上で主なる神から律法の掟を受けてそれを人々に伝えたモーセの姿を思い起こさせるように、イエスは山の上で、そのおことばを語っておられます。

それに対して、今日のルカ福音書では、あえて山から平らなところに降りて、イエスは語りかけておられます。ルカ福音書がわざわざこのような前置きをするのは、マタイ福音書では山の上で語られたイエスのおことばが、誰にでも聴くことの出来るようにとの意図をこめてのことかもしれません。もっと言えば、わたしたちの普段の生活の場において、このイエスのおことばを聞くようにとの配慮があってのことかもしれません。

事実、今日の福音の６章の 17 節と 20 節以降の間に置かれた、今日の朗読では省かれている部分を見ると、おびただしい人々が、イエスの教えを聞くため、また病気を癒していただくために、各地からイエスの周りに押し寄せ、汚れた霊に悩まされていた人々も癒していただいていたので、「皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気を癒していたからである」（ルカ 6・19）と報告されています。その大勢の人々の中に身を置いて、その人々に交じって、弟子たちは今日のイエスのおことばを聞いているのです。

「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである」（ルカ 6・

20）。イエスのこのおことばは、そのような人々と、その人々と身を接するようにしてイエスのおことばを受け止めようとしている弟子たちに向けて語られています。日本語の訳では、「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである」と言われていますが、原語では「幸いである」の「である」という言葉はなく、「貧しい人々は、幸い、神の国はあなたがたのものである」と言われています。イエスは抽象的に「貧しい人は、幸いである」と言われたのではなく、目の前にひしめくようにして救いを求めている人々に向かって、「貧しい人は、幸い、神の国はあなたたちのものである」と言われたのです。

それにしても、何故イエスは「貧しい人々が幸い」と言われるのでしょうか。このおことばを理解するための鍵は、マタイ福音書にはない、「幸いである」というお言葉と対になるように付け加えられている、「不幸だ」という後の方のおことばにあると思われます。ルカ福音書は、旧約聖書の中でよく用いられるこのような対比的な表現方法で、マタイ福音書が「心の貧しい人は幸いである」というイエスのおことばで示そうとしているのと同じことを表現しようとしているのです。「貧しい人々は、幸いである」というおことばと対を成すように語られている後の方のおことばを見ると、「しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている」（ルカ 6・24）と言われています。イエスは何故、富んでいる人は不幸で、貧しい人が幸いだと言われるのでしょうか。

富んでいる人たちは、今もう十分に満たされていて、今の自分たちの生活を享受することが出来ているので、イエスの周りに群がるように集って来て、何としてでもイエスから出る力に触れさせていただこうという必要性を感じないということなのかもしれません。そのことを、イエスは不幸だと言っておられるのかもしれません。人々の中に、わたしたちの中に、神の国の福音をもたらそうとしておられるイエスの眼から見れば、この世の幸、不幸の判断基準は逆転します。イエスは、わたしたちを捕らえて離さないこの世の幸不幸の価値基準を覆すお方として、わたしたちの前に立っておられるのです。

「貧しい人々は、幸い、神の国はあなたがたのものである」。現代社会の経済システムを支え、そしてそれが生み出す、わたしたち全ての者を束縛している幸不幸の価値基準をその根底から揺さぶるイエスのこのメッセージが持つ迫力をわたしたちはどこまで感じ取っているでしょうか。「貧しい人々は、幸い、神の国はあなたたちのものである」。このイエスの神の国の福音が持つ大らかな新鮮さを、わたしたちはどこまで感じ取っているでしょうか。

わたしたちが真実イエスの福音の力に触れることが出来るなら、わたしたち

は、わたしたちがその中で生きている現代の経済システムとそれが生み出す価値基準の金魚鉢の中のような息苦しさから解き放たれ、大らかな神のいのちの水脈に向かって泳ぎ出でることが出来ることでしょう。イエスの神の国の福音はそこに向けての、わたしたち全ての者に対する力強い招きであるのです。

「貧しい人々は、幸い、神の国はあなたがたのものである」。イエスは、わたしたちを覆うこの世の価値基準を根底から揺さぶる、この神のことばの力をどこから汲み上げておられるのでしょうか。今日のイエスのおことばは、第一朗読で聞いた、預言者エレミヤのことばと響きあっています。そして今日のエレミヤのことばは、旧約聖書の詩編や預言書また知恵のことばの中に数多く見出すことの出来る、神に従う者たちの道を示す神からの基本的なメッセージです。マタイ福音書が強調するように、旧約の律法と預言者を完成するために来られたお方として、イエスは今日もわたしたちにその神からのメッセージを告げておられるのです。だからそれは、神の国の福音を告げるおことばとなっているのです。

今日の福音には、貧しい人と富んでいる人の間の対比だけではなく、預言者と偽預言者との対比も示されています。何が預言者と偽預言者との、この対比を生み出すのでしょうか。偽預言者の視野は誰にでも納得できるこの世のことに限られています。偽預言者は、如何にしたら今のこの世で幸せになることが出来るかを予測し、そのためには何が必要なのかを語ります。その予言は当たっていることもあるけれども、根本的な点で大切なことに目をつぶっています。それは、この世に起こることは常に人間の予測を超えているということを無視し、全てを人間の予測可能な事柄とすることによって、わたしたちの視界から神を締め出す、偽預言者としての正体を現します。

このような視点に立って、あらためて今日の第一朗読のエレミヤのことばを味わってみたいと思います。